

アドミッション・ポリシー

| 《学校》 | 《学科》 |
|----------------------------|----------------------------|
| ①食・農・緑のプロフェッショナルを目指す意欲のある人 | ① 学ぶことに探求である人 |
| ②選んだ道に自信を持って前に進む強い意志のある人 | ② 授業・実習など積極的に取り組める人 |
| ③他者や地域社会との交流に積極的な人 | ③ 将来農業分野・農業業界を志す人 |
| ④ | ④ 節度を持って他者とのコミュニケーションが図れる人 |

カリキュラム・ポリシー

基礎科目・基礎実習の習得

1
年
前
期

達成目標

- ① 基礎科目を中心に栽培理論を理解する。
- ② 総合実習を通し、農作業の基礎を身につける。
- ③ 栽培実習で現場作業を理解する。
- ④ 生産だけでなく経営のやり方の基礎も身につける。
- ⑤ PCツール（Excel）の基礎的な操作方法を理解する。

| 主な履修科目 | 履修内容 |
|---------------|--------------------------------------|
| 農業基礎論 | 農業学習の基礎。基本を理解し学生の基盤を習得する。 |
| 農業基礎総合実習 | 野菜栽培を中心にを行い、植物の生育過程など基礎的な知識・技術を習得する。 |
| 水稲・野菜・果樹栽培実習Ⅰ | 外部連携農家の指導の下、現場感覚の基礎を習得する。 |
| 農業経営 | 簡単な財務分析など営農した時に必要な知識を習得する。 |
| OA実習 | Excelの基礎操作および簡易的なグラフ作成技術を習得する。 |

栽培技術の基礎固めと2年次への準備

1
年
後
期

達成目標

- ① 各種作目の特徴・生理を理解し、2年次へのステップアップを目指す。
- ② 栽培実習を通し、栽培サイクルや現場感覚をさらに高め基本をマスターする。
- ③ 各種資格取得を目指す。（農業技術検定 / 簿記能力検定 / Excel検定 etc...）
- ④ 営農を見据えた経営ビジョンがたてられる。
- ⑤ 営農を見据え、どんぶり勘定にならないように経理管理が理解できる。

| 主な履修科目 | 履修内容 |
|---------------|-------------------------------------|
| 基礎栽培学 | 各種作目の特徴および生理の知識を習得する。 |
| 水稲・野菜・果樹栽培実習Ⅰ | 外部連携農家の指導の下、さらに現場に近い感性を習得する。 |
| 各種検定対策 | 各検定の概ね2週間前より実施。より深く知識を学び、該当資格を習得する。 |
| アグリビジネス論Ⅰ | 栽培計画～収穫目標・販売までの事業計画などの作成知識を習得する。 |
| 農業簿記基礎 | 商業簿記をベースに経営管理の基礎理論を習得する。 |

農業機械ライセンスの獲得と1年次の栽培知識・技術の応用

2
年
前
期

達成目標

- ① 通年を通して農業業界の現場感覚を獲得できる。
- ② 農業を取り巻く法律・法令が理解できる。
- ③ ドローンおよび農業を取り巻く資格の獲得ができる。
- ④ 作業委託者(作業オペレーター)としての技術を獲得できる。
- ⑤ 1年次に身につけた栽培の基礎知識・技術を活用した取り組みができる。

| 主な履修科目 | 履修内容 |
|---|--|
| プロジェクト実習 I 農業法規 (ライセンス講習) (農機操作実習) | 模擬農家経営を行い、果菜類を中心に「栽培計画～収穫・販売」までの実践経験スキルを習得する。 農業関連法などを学び、農業経営者に必要な基礎的な知識を習得する。 農業ドローン技能認定証明証/大型特殊免許を主に取得する。(外部連携) トラクタなどの大型機械の操作によりオペレーターとしての経験を習得する。(外部連携) |

現場で即戦力になれる人材の育成

2
年
後
期

達成目標

- ① 農業機械の整備および点検はできるようになる。
- ② 農業機械の構造と仕組みを理解できる。
- ③ 電子回路および導線の仕組みを理解できる。
- ④ 農業機械関係の資格を獲得ができる。(主は中型自動車免許 ← 2022年5月改定で最短20歳で獲得可能)
- ⑤ 通年を通して農業業界の現場感覚・作業内容を理解できる。

| 主な履修科目 | 履修内容 |
|--|---|
| 農業機械 (農業機械演習) (電子工学) プロジェクト実習 I | 機械の構造の理解をし、自ら整備・点検が行える知識・技術を習得する。 大型機械の構造・仕組みを理解し基礎的な整備・点検の知識・技術を習得する。 電子回路を理解し、機械の不調・不調原因の知識・理解を習得する。 模擬農家経営を行い、葉菜類を中心に「栽培計画～収穫・販売」までの実践経験スキルを習得する。 |

ディプロマ・ポリシー

- ① 作物の生理を理解し、各品目において適切な栽培ができること。
- ② 農業関連の法律・情報の裏を理解し、世論に振り回されない観察眼がもてること。
- ③ 農家(顧客)とやり続けていける継続力・コミュニケーション力がもてること。
- ④ 生産(栽培)の現場において、作物の変化・環境の変化を察知することができること。
- ⑤ 電子工学の仕組みを理解することで、農業機械はもちろん別の電子機器にも応用力がもてること。
- ⑥ 作業にあたり危険予知が実施出来、作業への周知と事故防止のコミュニケーションができること。
- ⑦ 農業機械を正しく扱い、正確な農作業ができること。
- ⑧ 農業機械の構造を理解し、サポートの立場から農業業界を支える存在になることができること。